

#ゼミを語ろう

●東北学院大学法学部 玉井裕貴ゼミ(倒産法)

ゼミから始まる学問の冒険 ～玉井ゼミクエスト攻略の旅～

#先生の紹介

玉井先生は、民事手続法の中でも倒産法を専門にされています。具体的な研究内容は、再建型倒産処理手続のアメリカ法・ドイツ法との比較研究、暗号資産（仮想通貨）の倒産法上の取扱いなど多岐にわたります。

玉井先生は、何事においても常に学生の立場にたって話を進めてくださいます。一見難しそうな倒産法ですが、身近な例を示したり、分からないところは丁寧に説明してくださるので、苦手意識を持つことなく、ゼミに取り組むことができます。

とくに、3年ゼミでは、「ゼミクエスト」として、全員に平常点の換算のためにポイントカードが配布され、カードゲーム感覚でポイント（平常点）を獲得していくことを通じて、主体的に参加しやすい環境作りをしてくださいました。カードにはそれぞれ効果があり（発表報告を聴く側に対し、質問義務など）、1枚1枚デザインが異なる上に、丁寧にラミネートされていて、まるで市販のものようです。内容も面白く、その魅力はここで語りきれるものではありません。難しい内容でも楽しみながら学んでいるうちに、自然と任意の課題を出す習慣が身に付いていたり、気になることや調べたいことが出てきたりします。このように遊び心満載な授業展開で、学生のやる気に火をつけてくださる点も、玉井先生の魅力の1つとなっています。

また、玉井先生は卒業生との関係を大切にします。会食や卒業後の話を聴く機会が多く、大学を卒業しても関係が切れないのは先生の素敵

なお人柄のおかげだと感じます。

#ゼミの活動内容

東北学院大学法学部では、3年・4年で学年別にゼミが開講されています。

3年生では、グループごとに倒産法の重要項目の1つを選んで発表し、その後、事例問題に回答するという活動をしています。1つのテーマについて2コマを使い、ゼミ生1人ひとりが、学期中に少なくとも一度は、発表と事例問題の回答作成を経験します。

詳しい内容としては、各グループが選んだ項目について「ゼミの中で1番詳しい人たち」になるべく、事前に、教科書や体系書、判例など様々な資料から知識を得て、理解を深めます。そこで得た情報をレジュメやスライドにまとめてゼミの時間に発表をします。発表の後には、質疑応答の時間が設けられており、メンバー全体で理解を共有していきます。それを踏まえて、テーマに関する事例問題を検討し、回答案の作成に全員で取り組みます。

4年生の前期は、1人1コマ与えられての判例報告が主な内容です。各々が興味のある判例を選び、自分なりの解説を報告します。フロアのゼミ生や玉井先生からの鋭い質問は胃を苛みますが、来る質問を予想し、その準備をすることで判例への理解がさらに深まります。

後期では、前述した判例報告や、3年次に抱いた疑問等から見つけた興味のある民事手続法上の論点をテーマとしたゼミ論執筆が主な活動内容です。これまでゼミで得た知識や力が論文として形になっていく過程は、大変さもありま

すが、それ以上にとっても楽しいものです。

ゼミの特徴

玉井ゼミの特徴は、まず、先生と学生との距離の近さが挙げられます。綿密な指導で、学習における質問に限らず、進路やプライベートな悩み相談にも玉井先生は応じてくださるため、ゼミ生は迷える子羊となることなく学生生活を送ることができます。「求めよさらば与えられん」の精神で、積極性を持てば、個人の進路や希望に沿った学習内容をともに考えてくださいます。

また、ゼミの区切りには、ピザパーティーやコンパをしたり、学生からの要望があれば、合宿やゼミ旅行なども開催されます。学ぶ時は真剣に、楽しむ時は精一杯楽しむというようなメリハリのあるゼミも玉井ゼミの特徴です。

どんなゼミ生が多いか

玉井ゼミ生は、個性的な学生が多いです。その個性は卒業後の進路にも顕れており、進学（法科大学院・公共政策大学院）から国家公務員・地方公務員、民間企業、家業、海外留学と様々です。進路が違えばそれぞれの視点や疑問を感じる部分も違うわけであり、各人がもつ個性と相まって、自分にはない新たな発想を得ることも少なくありません。また、倒産法は債権者・債務者どちらの側の人生にも大きく影響す

る法律であり、課題に取り組むにあたって様々な角度から検討する必要があるところ、多彩な個性から発現する多様な視点は、倒産法を学ぶ上で貴重な足掛かりとなっています。

後輩（読者）へ向けて

ゼミは学生が作るものですから、まずは心構えとして主体的に参加することが重要です。「自分が分からないことは、ほかの人もわからないだろう」と思って、疑問に思ったことは積極的に質問を投げかけるなどして自由に議論を展開することで、より理解が深まります。はじめは難しくても、慣れていけば議論はとて有意義な時間となりますし、ゼミでの交流がとて楽しいものになっていきます。話し合いをすすめることで自分にはなかった考えも知ることができ、自分を成長させられる場になります。

加えてゼミは、学問を深める場としての役割だけでなく学習生活の拠点としての役割も担います。進路や学習面の不安を話すことができる仲間がいることは心強く、何気ない会話を楽しむ時間によって、大学生活がより充実したものになっています。

ゼミで過ごす時間はとても貴重なものです。玉井ゼミの紹介を通して少しでもゼミに興味を持ってくれたら嬉しいです。

（文責：茂木ひなた=渡邊花菜=渡部愛絵）



東北学院大学土樋キャンパスにて

ゼミメンバー

3年生

伊東裕衣香
岡本和大
佐々木 耀
小林広弥
八木翔太郎
長田和真
齋藤浩哉
安藤謙伸
大宮理子
岡崎凌大
佐々木 楓
芳賀 薫
渡邊花菜
渡部愛絵

4年生

佐藤世理
杉本 航
高橋 優
星野晃平
渡辺ゆき
稲田凜香
門脇匡秀
茂木ひなた

記事掲載のご希望と
お問い合わせは
編集部 e-mail アドレス
housemi@nippyo.co.jp まで